

あった。骨巨細胞腫の核医学検査において、Tl シンチグラフィは、腫瘍の進展範囲を明確にすることができ、また、術後再発の診断にも有用であった。

2. ^{201}Tl -SPECT 肺腫瘍シンチグラフィにおける視覚的評価と定量評価の問題点

松井 律夫	小森 剛	田淵耕次郎
中田 和伸	難波隆一郎	辰 吉光
西垣 洋	足立 至	清水 雅史
末吉 公三	植林 勇	(大阪医大・放)

^{201}Tl -肺腫瘍 SPECT において良性病変を中心に視覚的、定量的に再評価を行い、その問題点を検討した。対象は長径 1.5~4 cm の CT 上腫瘍を疑わず mass lesion 40 例：良性病変 25 (炎症性病変 10, 結核 5, サルコイドーシス 2, inflammatory pseudotumor 2, bronchogenic cyst 2, benign paraganglioma 1, 硬化性血管腫 1, non specific lymphadenitis 1, osteolipoma 1), 悪性病変 15 (肺癌 14, 転移性肺癌 1)。

定量評価の方法は再現性の良いものとして、以下のものとした。ROI は後期像の axial image にて異常集積部を確認し、加算した像に irregular ROI として設定し、この ROI を早期像にも当てはめた。対照となる正常肺は同 ROI を同じ深さの最も正常な部位に選んだ。これらの ROI より Early Ratio, Delayed Ratio, Retention Index (RI) を算出した。

結果 1. 視覚的評価で良性病変の 10/25=40%, 悪性病変で 3/15=20%が診断を誤った。RI による定量評価では 0 を境界として判定した場合、良性でやはり 10/25=40%, 悪性で 3/15=20%が診断を誤った。2. 定量評価にても良悪の間にはかなりの overlap があり、RI が -20~+20 の間を示すものは境界領域として対処する必要がある。3. 良性病変でも炎症性病変やサルコイドーシス、結核などで washout 不良のものがあ、注意が必要である。

3. $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -tetrofosmin が集積した乳癌の 2 症例

足立 至	田淵耕次郎	山本 和宏
中田 和伸	難波隆一郎	辰 吉光
西垣 洋	松井 律夫	末吉 公三
植林 勇		(大阪医大・放)
大久保知之	田本 重美	(同・一内)
大竹 義章		(同・三内)

症例 1 51 歳女性。生来右胸心を指摘されていた。平成 6 年左乳房中央に腫瘤を自覚したが放置していた。徐々に増強したため、平成 7 年 4 月に当院一般消化器外科受診となった。生検による病理組織診断は浸潤・線維化を伴う乳頭腺管癌 (Papillotubular carcinoma) であった。 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -tetrofosmin を安静時に 555 MBq 静注後 1 時間後から撮影したところ Planar 像、SPECT 像ともに左前胸部に著しい集積が見られた。

症例 2 78 歳女性。平成 6 年 10 月に左乳腺から血性の分泌液が見られ、平成 6 年 12 月に当院一般消化器外科受診となった。既往歴：72 歳時に完全房室ブロックを指摘されペースメーカーの植え込み術を受けた。平成 7 年 1 月 9 日に非典型的乳房切除術が施行され嚢胞内乳頭状癌 (intracystic papillary carcinoma) と診断された。術前の $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -tetrofosmin 心筋シンチグラフィで左前胸部に異常集積が見られた。

考案 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -tetrofosmin の心筋への集積機序は受動拡散でありミトコンドリアの阻害剤で心筋細胞への集積が抑制されることが知られており、 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MIBI と類似している。 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MIBI は乳癌主病巣で 90% 以上で、腋窩リンパ節転移も 84% と高率に診断もできる長所も報告されている。 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -tetrofosmin を使用し Planar 像、SPECT 像ともに乳癌の主病巣と転移リンパ節への集積が見られた症例報告があり、肺野、肝臓への集積が低い $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -tetrofosmin は有用性が高いと考案されている。今回の自験例ならびに文献的考察から $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -tetrofosmin も乳癌の診断・治療の一助になるものと考えられた。